

CASBEE-建築(新築)2014年版
西南学院大学新図書館

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.1.22)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.9
Q1 室内環境								3.7
1 音環境				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-	
1.2.1 開口部遮音性能		サッシの遮音性能:T-2。		5.0	0.30	-	-	
1.2.2 界壁遮音性能				3.0	0.30	-	-	
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr=45		5.0	0.20	-	-	
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		Lr=55		4.0	0.20	-	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				3.9	0.35	-	-	3.9
2.1 室温制御				3.6	0.50	-	-	
2.1.1 室温		設定室温:夏期26℃、冬期22℃。		4.0	0.60	-	-	
2.1.2 外皮性能				3.0	0.40	-	-	
2.1.3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		床吹出空調システム		5.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				3.5	0.25	-	-	3.5
3.1 昼光利用				2.8	0.30	-	-	
3.1.1 昼光率				2.7	0.60	-	-	
3.1.2 方位別開口				-	-	-	-	
3.1.3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	
3.2.1 昼光制御				3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		設計照度500lx以上。		4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		熱線センサーによる自動調光システムを採用。		5.0	0.25	-	-	
4 空気環境				3.9	0.25	-	-	3.9
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
4.1.1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建築材料を使用。		4.0	1.00	-	-	
4.1.2 アスベスト対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.3	0.30	-	-	
4.2.1 換気量		換気量:30CMH/人。		4.0	0.33	-	-	
4.2.2 自然換気性能				1.0	0.33	-	-	
4.2.3 取り入れ外気への配慮		給排気口を6m以上離して設置。		5.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理				4.5	0.20	-	-	
4.3.1 CO ₂ の監視		空気質に関する管理マニュアルが整備されている。		4.0	0.50	-	-	
4.3.2 喫煙の制御		全館禁煙としている。		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.7
1 機能性				4.0	0.40	-	-	4.0
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-	
1.1.1 広さ・収納性				-	-	-	-	
1.1.2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	
1.1.3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準を満たしている。		4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-	
1.2.1 広さ感・景観				3.0	0.50	-	-	
1.2.2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
1.2.3 内装計画		内装コンセプト計画及び照明との一体的計画等がある。		5.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	
1.3.1 維持管理に配慮した設計		防汚性に配慮した材料の使用等。		4.0	0.50	-	-	
1.3.2 維持管理用機能の確保		バルブ設置位置や清掃性に配慮した設備機器の設置。		4.0	0.50	-	-	
1.3.3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-	
2.1.1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2.1.2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-	
2.2.1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-	
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装仕上げ材を使用している。		5.0	0.10	-	-	
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の長い配管材を使用している。		5.0	0.20	-	-	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.8m以上。	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.17	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		設計荷重の割増を行っている。	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造材及び仕上げ材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造材及び仕上げ材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.4
1 生物環境の保全と創出		豊富な緑地の計画及び立地特性を考慮した樹木の選定等がある。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		既存樹木の保存や周辺建物とのまちなみ調和がある。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		外構に年表を配置し、大学の歴史を感じさせるデザインとしている。	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.924	3.6	0.20	-	-	3.6
2 自然エネルギー利用		自然換気システムを採用している。	5.0	0.10	-	-	5.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) -	4.2	0.50	-	-	4.2
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI=0.85	4.2	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	用途別にエネルギー消費量の把握ができる。	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.3
1 水資源保護			3.5	0.20	-	-	3.5
1.1 節水		節水器具の過半採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	再生水を雑用水に利用している。	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			5.0	0.60	-	-	5.0
2.1 材料使用量の削減		BCP鋼材の使用等。	5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		既存杭を残置し、再利用している。	5.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		杭等:高炉セメントB種、フライアッシュセメント	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床:ビニルタイル、ビニルシート、タイルカーペット	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		持続可能から産出された木材を50%以上使用している。	5.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材の分離が容易、OAフロアの採用。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含有していない材料を4種類採用。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.6	0.70	-	-	
1	消火剤		1.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP<0.01、かつGWP<50の断熱材を使用。	4.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率:85%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	十分な駐車スペース及び荷捌き用駐車スペースの確保等。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミのストックスペース確保等。	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制	1ランク上の日影規制基準を満たしている。	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	効率のよい屋外照明器具の採用等。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	